

松永 節 様

読んだ本の書名：「カーリーさんの庭」

(ジェイン・カトラー 作、ブライアン・カラス 絵、磯 みゆき 訳 ポプラ社 2012)



まず、絵に魅かれました！

あるご近所さん、四人のお年寄りはそれぞれ庭づくりを楽しんでいます。みんなは自慢の花や野草を育てていますが、カーリーさんの庭だけは穴だらけ。カタツムリの仕業です。心配した三人はあれこれカタツムリの退治法をアドバイスします。ところがカーリーさんは「このままがいいんじゃ！」と言います。そしてある夜、カーリーさんの言っていた意味が、みんなにわかる時がくるのです。

この絵本から、いろんなメッセージを感じます。仲良し同士で遊んでいても、少し違うが出れば、みんなよかれと思ってアドバイスをします。でも隣と違うことに縛られないで、ちょっと視点を変えてみれば、マイナスと思っていたことがプラスになる。みんな同じじゃないことを恐れず、新しい視点で見る楽しさの発見です。大きくりっぱに育てたいということにとらわれすぎて農薬をまいたり、ムダなものは殺してしまおうとする。それは人間中心の考えかもしれません。

カーリーさんは発見します。おじゃま虫のカタツムリが月夜に照らされ銀のリボンになることを！ 四人のご近所さんが集まってお月さまに照らされたカーリーさんの庭でお茶をするシーンはステキです。こっそり仲間に入りたくなりました！！